

# 楓の森アップ°テート

学校教育目標：夢を持ち 自ら考え よりよく行動できる児童の育成



合志市立合志楓の森小学校  
学校だより 第6号

令和5年(2023年)7月19日  
文責 校長 佐藤 政臣

前号では、「夏休みの過ごし方は人生の縮図？」をテーマに保護者の皆様にも考えていただきました。

本号では、「生成 AI とこれからの人材育成」をテーマに考えてみたいと思います。

## 生成 AI とは……………

～ 使ってみて、理解する ～

対話型生成 AI は、ChatGPT(OpenAI)、Bing Chat(Microsoft)、Bard(Google)などがあります。保護者の皆様も仕事やプライベート等で使用されていることと思います。私も ChatGPT3.5 を使用しています。

しかし、無料版の ChatGPT3.5 では、まだまだ誤情報があります。例えば、「ごんぎつねの読書感想文」と入力したら作者が新美南吉ではなく宮沢賢治であると書かれていました。また、内容も若干「？」と思うところもありました。それでも、数秒で論理的な文章を作ることができ、参考になる記述も多くあるというのも事実です。

生成 AI の利用規約については、「ChatGPT が13歳以上、18歳未満の場合は保護者の同意が必要」、「Bing Chat は、成年であること、未成年の場合は保護者の同意が必要」、「Bard は、18歳以上であること」となっています。そのようなことから、未成年者に使わせるには、大人がまず生成 AI を理解する必要があります。

私は、この3連休で、生成 AI に関する2冊の本を読みました。1冊目は、「AI が書いた AI についての本(監修 James Skinner 著 AI)」、2冊目が「アフター ChatGPT(著 山本 康正)」という本です。

AI が AI について書いた本では、AI がこれだけの本を執筆することができることに驚きました。1つの例を紹介すると、Chat GPT について、AI 自身が次のように書いています。

(P.192引用) ChatGPT は、書籍、記事、Web サイトなど、さまざまなソースを含む大規模なテキストデータセットでトレーニングされています。その結果、トレーニングされたテキストに似たスタイルと内容の応答を打ち出せるわけです。ただし、ChatGPT には独自のアイデアや考えはありません。……(中略)……AI の利便性と人間がそれに寄せる絶対的信頼により、人々は AI の言うことを疑いもなく受け入れてしまうようになるかもしれません。

## 生成 AI と児童の教育

～ 今後、どのような人材が必要か ～

このように人間化した状態にまで進化した生成 AI と人間との差別化を図るために、「アフター ChatGPT(著 山本 康正)」には、今後、必要な人材について次のように書かれています。

(P.157 佐藤要約) AI の普及によって人間の仕事が奪われるという議論はずっとされてきました。

生成 AI が描いたイラスト、生成 AI が作った音楽など世にあふれています。

また、指示されたことだけを行っている職は、淘汰されるでしょう。つまり、ビジョンを描ける人の価値がより高まるということです。指示されたことをただ行うのではなく、自分で問いを作り出せるような人材が求められていきます。ですから自分で問いを組み立てるトレーニングが必要になると思います。

そうした未来を見据えると、教育の在り方も変わっていくことが避けられないようになります。



文部科学省は、「初等中等教育段階における生成 AI の利用に関する暫定的なガイドライン」を作成しました。そこには、生成 AI の概要から生成 AI の教育利用の方向性まで具体的に述べられています(この QR コードから参照されて下さい)。その中に各学校で生成 AI を利用する際のチェックリストがあります。例えば、個人情報やプライバシーに関する情報、機密情報を入力しないことなどが挙げられています。生成 AI の利用に関しては、文科省も慎重な対応になっています。

生成 AI は、指示したことについては、正確にスピーディーに処理することができます。AI と共存していくためには、人間の強みを生かす必要があります。

それは、指示されたことをこなすだけの人ではなく、自分で問いを作り出せるような人、ビジョンを描きそれに向かってよりよく行動できる人になるということです。

学校行事や子どもたちの学習の様子につきまちは、毎日ホームページを更新していますので、ご覧ください  
<https://es.higo.ed.jp/kaedenomori/>



楓の森小 HP